

「そういう事なら、法事が無い時には、どうぞお使いください」と仰つてくださつたんですね。

それから毎日行つて、『般若心経』を上げたり、いろんな事を始めたんですよ。鐘をゴーンと叩くと、何か気分がスーッとしていく訳ですね。これをやっていけば、「人間とは何ぞや」が分かるんじゃないだろうか、また簡単な事を考えた訳です。そして、「何かあるのかな、何かあるのかな……」と、盛んにやっていた訳ですよ。——そんなものは、ある訳が無いですねえ。(笑)

#### 四、ある新興宗教での出来事

そうするうちに、ある新興宗教の信者の人が来て——これは家の女房の友達なんですから、

「お宅のご主人、何かちよつと話をしたいらしたけれども、私の入つてる教団に来

たら、そういう疑問はよく分かりますから、来ませんか」

と仰る。その人は、〇〇教団という処に入つて、一所懸命やつてる訳です。

しかし、私はそういう新興宗教というのは大嫌いだったんですよ。ですから誘ひには乗らなかつたんですけど、再三来て仰るもんですから、「それじゃあ、どんな処なのか、また新興宗教っていうのは、どういうものなのか見るのも良いし、行くだけ行って聴いてみよう」と、そういう事になった訳です。

行つてみたら、「信者になりなさい」と言うんですね。で、信者になった。

そうしたら、「三日間、研修があるから、それを受けてください」と言うから、受けた訳です。そして首から下げるペンダントを貰つたんですよ。ところが、「この中には神様が入っているから、やたらな処に置いてはいけませんよ。もし畳の上にも置いたら大変な事になりますよ」

と、そう言われた訳ですよ。ですから、言われた通り大事にしていた。

十一月の末に、そのの教団に入つて、「とにかくやりなさい」と言われた事を一所懸命やっていたんですね。

二月ばかりした時、「これはいけない」と自分で思ったんですね。入って一月過ぎた時に私は、「何かおかしい」と、こう感じてきた訳です。

その辺から、「新興宗教というのとは一体どういものだろうか」と、物凄く突っ込んでいったんです。そして表も裏も横も、一所懸命に見始めた訳ですよ。（笑）

まず、何がおかしいのか——教団には教祖がいるけれど、この教祖という人は、一体どんな人なのか——いろんな事を調べ始めたんですよ。

そして、この教団の中でやっている事が、本当にこれで人を救うのだろうか——。大体、宗教というのは、人間を救うと言いますよね。今、教団がやっている事で、本当に人間を救えるのか疑問になってきたんですね。

「教祖という人は、大きな力を持っているけれども、一体、自分の生活はどのようになっているのだろう」と、そうは意識していなくとも、何かそのように走っていったんですね。そして、「そういう中にいる信者の人達は、どういう気持ちになるのだろうか」と、みていった。

教団では、浄霊とかいう名目で、必ずお礼をしなくてはいけない。お礼をする時は、長い机があつて、そこで誰々は幾らお金を出したと書くようになっていくんですね。私が行った時、横の人が千円と書いていたものですから、「それじゃ、私は千五百円……いや二千円にしよう」と、そういうものが出てくるんですね。

人間には、競争心というのが物凄くある訳ですね。そういうものを煽られている。そうすると、「人より多く出すと、何か自分が余計に分かって、余計に救われるんじゃないかな」と、そう思ってしまうんですね。

その時に、「ちよつと待てよ、これはおかしいぞ」に、なってきた訳です。その中で起きてくる霊的な現象も、これは正しいものではない。——そういう事も実は分かってきた訳です。分かってきたと言っても、自分の五官（眼・耳・鼻・舌・身）で感じる中ですね。

そして、何よりも疑問に思ったのは、そういう宗教団体の処には、身体の悪い人、貧しい人、心の迷っている人が沢山集まってくる訳ですよ。その中で、私の行った処の教祖という人は、物凄く立派な、もう金羽織のようなものを着て現れる訳です。で、車はドイツ製のベンツの高級車に乗って来る訳ですよ。

私はそれを見て、先ず疑問に思った訳ですね。多くの人を救うという人が、何故このような派手で華美な生活をしなくてはいけないのか――。

或る日、その神様が降りて来たという場所で教団のお祭りがあったんです。相当な人が集まるという話でしたが、信者は三十数万人の筈なのに、集まらない。

まあ、六千人位集まったでしょうか。

そのうちに教祖がやって来て、祭りが始まったけれども、雲行きが悪くなってきた。幹部の人が、「このお祭りの時には、絶対に雨が降らない」と言っていたのに、ポツリポツリと雨が降って来たんですよ。これは野天であつたんですね。

そうしたら、幹部の偉い人が出て来て、空に向かつて一所懸命に手を翳して何か言い始めた訳ですよ。私は不思議に思つて、聞いたんですね、

「すみません。何をしたらいいんですか？」

「いゝから、あなたはそんな事は聞かずに、あなたも一緒にやりなさい」

「こうやったら、どうなるんですか？」

「こうやって祈ったら、雨が止むんだよ」(笑)

――そう仰るんで、私もやりましたよね。「一体、これで本当に雨が止むのかな」と思った訳ですよ。しかし、みんなもやってるから、自分も一所懸命やった。

そうしたら、とうとうどしや降り――。「なんじや、これは」と思いましたね。(笑)

昔、竹竿で星を落とそうとした話がありましたよね、それと同じですね。

後で考えたら、馬鹿みたいな話ですけどもね……。こうやって、手を上げて雨が止んだら大変ですよ。(笑)ところが、みんな真剣にやるんですよ。

私はそれを見ていて、益々これはおかしいと思つたんですね。

そうやって、その教団の教え、宗教というものに対して、いろんな面から、どんどん追求していったら、矛盾だらけで、その裏側も分かってしまったんです。

「あつ、新興宗教というものはこんなものなんだ。こんなもの、馬鹿くしいから、辞めてしまおう」と思つたんですね。ところが、その幹部の人が、

「あなた、辞めたら、大変な事になるぞ」

とか、いろんな事を言うんです。

私の方は、「何、言ってるんだ」と、こう思つた訳です。

そして、一人で辞めるのも勿体無いから、知っている信者さんの家を一軒く歩いで、「この教団は、おかしいから辞めなさいよ」って言って回ったんですね。

そうしたら、すっかり睨まれましたね。(笑) 私はそんな事、気にしなかったけれど、もう睨まれましたね……。

分かった以上、一人だけ抜けるのは申し訳無いと、そう思った訳ですよ。(笑)

しかし、これは間違いですね。自分がそう思ったからといって、人に押し付けたら、

これはいけませんね。これじゃあ、教団側の商売の営業妨害になりますよね。(笑)

そして、とうくそこを辞めてしまったんですね。

次回に続く——次回更新予定は、二月上旬頃です。